

名前：

今の世界では、インターネットはもはや生活の中に不可欠なものになってきた。インターネットで、いろいろな情報が取れるようになった。たとえば、インターネットでニュースを見たり、論文を探して読んだりすることが出来る。そのため、これから新聞や雑誌などの書物もいらないと一部の人は思っている。

確かに、全ての情報はインターネットにのせると、紙に刷印される刊物はたぶん必要ではない。そうすると、たくさんの木を切らなくても、情報は世界中で広められるし、地球の環境にとってもいいことだと思う人も多い。

それはそうだと思う。インターネットの発明は、ほんとうに人間に便利をもたらしている。人が家を出掛けなくても、世界中のあれこれが分かることはごく普通だ。しかし、インターネットが書籍に代わることはほんとうにいいのかな？

私はそう思わない。実は、インターネットで見るのがなかなか好きではない。モニタ

ーを見すぎると、目がだんだん痛くなってきた。やはり、本を見たほうが好きだ。

もちろん、個人的な好き嫌いだけでなく、ほかの理由もある。インターネットは虚構なもので、その中にある情報は電子化されたもの。もし電力がなければ、世界中の情報はいっさい中止してしまふ。特に、大切な資料も消えるかもしれない。重要な資料や内容は本の形式で保存したほうがいい。未来の世界がどうなるのは予測できない。万一、世界中のエネルギー源が全てつくされる時とか、昔々の生活に戻る時とか、その時、インターネットはたぬなものになってしまふ。

新聞や雑誌など大切ではない書物は、いなくても大丈夫だが、研究資料や教科書などやっぱり必要だと思う。インターネットは生活に便利だが、必ずしも全てのものに代わるわけではないのではないのでしょうか？